

TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

「横断禁止」の標識がある道路を渡る歩行者を観察する

DATA 基礎情報

「横断禁止場所」で事故に遭った歩行者のほとんどは20歳以上

2022年の歩行者（第1当事者※）の交通事故件数（640件）を違反別にみると、約15%は「横断禁止場所」（62件）や「横断歩道以外」（31件）での横断である。「横断禁止場所」で事故に遭った歩行者の約97%は20歳以上だ。

歩行者は、横断歩道や信号機のある交差点が

近くにある時は、その横断歩道や交差点で横断しなければならない。また、歩道橋や横断用の地下道が近くにあれば、できるだけその施設を利用することが求められている。そして、横断歩道や歩道橋などの有無にかかわらず、「歩行者横断禁止（以下、横断禁止）」の標識のある場所では横断してはいけない。今回は、東京都内の幹線道路2カ所で横断歩道以外を渡る歩行者を観察した。

※交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。

WATCHING 観察

横断するのは成人ばかり
小学生は歩道橋を利用

観察場所AはJR「亀戸駅」から約300mの場所にある蔵前橋通り。駅に続く路地に接続する地点で観察を行った。道路の両側には「横断禁止」の標識があり、近くには歩道橋が設置されている。ここを横断した歩行者は1時間で97人。このうち歩道橋を利用したのは20人、残りの77人は「横断禁止」の道路を渡っていた。歩道橋を利用した20人のうち16人は登校中の小学生で、道路を横断した人に小学生・中学生・高校生はいなかった。道路を横断しようとする歩行者の多くは車道ギリギリの場所（自転車通行帯）まで出て左右を確認し、往来するクルマが途切れるのを待っていた。最寄りには歩道橋のほか、約

70m離れた場所に信号のある横断歩道もあるのだが、少しでも早く駅へ行きたいという気持ちから、横断禁止場所を渡っていると思われる。

観察場所Bは東急電鉄「松陰神社前駅」から約200mの場所にある世田谷通り。通りに面したスーパーマーケット周辺で観察を行った。道路の両側には「横断禁止」「わたるな」の標識があるが、39人が道路を横断した。横断した人は、60代以上が約6割を占め、観察場所A同様、小学生・中学生・高校生はいなかった。スーパーマーケットへ行く人（および買い物を終えて帰る人）や、スーパーマーケットの向かい側にあるバス停を利用する人が道路を横断していた。観察地点から信号のある横断歩道までは約100mあり、横断歩道を利用して迂回すると合計200m近く歩くことになる。それが億劫で道路を横断しているようだった。



スマートフォンを注視しながら横断禁止の道路を渡る歩行者（観察場所A）

ADVICE アドバイス

ドライバー・ライダーが
横断する歩行者を見落とすこともある

観察場所A、Bともに横断禁止場所であるが、どちらも道路を渡る歩行者は存在した。観察場所Aでは、小学生は歩道橋を利用していることもあり、交通ルールを守っていることも大人が悪い見本を示す形となっていた。また、クルマの往来が途切れるまで時間がかかるケースがあり、その待ち時間を含めると最寄りの横断歩道や歩道橋を渡った場合の所要時間と大差ないように感じられた。明らかに左右からクルマが来ていないことがわかっている状況では、スマートフォンを注視しながら、ゆっくり歩いて横断するケースも見られた。本人は安全なつもりだろうが、たいへ

ん危険な行為である。

観察場所Bは片側一車線だが、クルマの通行量は多い。ここを横断する人の多くは「クルマが自分を認識してくれている」「クルマのほうが止まってくれる」と都合よく考えていると思われ、急がずゆっくり歩いて横断していた。横断禁止場所を渡ること、歩く距離を少しでも短くしたいのだろうが、ドライバー・ライダーが脇見などで歩行者を見落とした場合は命取りになりかねない。歩行者は自分が事故の被害者にならないようにするためにも、道路を渡る時は横断歩道（歩道橋、横断用の地下道）を利用してほしい。一方、ドライバー・ライダーは駅や商業施設などの周辺を通行する際は、横断歩道のない場所でも歩行者がルールを守らずに道路を横断してくることを意識して運転する必要がある。

観察結果

観察場所 A

東京都江東区亀戸4丁目付近
観察日/11月24日（金）
観察時間/7:45～8:45
天候/晴れ



約70m先の信号のある横断歩道まで行かず道路を渡る歩行者

●道路横断状況（人）

	小学生	中学生	20～50歳代	60歳代以上	合計
横断禁止場所	0 0.0%	0 0.0%	75 97.4%	2 2.6%	77
歩道橋	16 80.0%	0 0.0%	4 20.0%	0 0.0%	20
合計	16	0	79	2	97

*小学生、中学生、20～50歳代、60歳代以上の判断は観察者の見解による。



自転車通行帯で往来するクルマが途切れるのを待つ



クルマが途切れると歩行者は一齐に横断を開始



すぐ近くには歩道橋が設置されている



登校中の小学生は歩道橋を利用していた

観察場所 B

東京都世田谷区世田谷4丁目付近
観察日/11月24日（金）
観察時間/16:15～17:15
天候/晴れ



道路の両側にはスーパーマーケットとバス停がある

●道路横断状況（人）

	小学生	中学生	20～50歳代	60歳代以上	合計
横断禁止場所	0 0.0%	0 0.0%	15 38.5%	24 61.5%	39



「横断禁止」の標識があるにもかかわらず、道路を渡る歩行者たち



観察場所から約100m離れた場所に信号のある横断歩道が設けられている



杖をつきながら横断する高齢女性（写真中央）



横断する歩行者の多くがクルマが接近しても止まらない